

科目名	システム設計						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	志水徹・川野啓祐・木村浩昌		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	システム設計における基礎レベルの知識を習得する。知識を活用した演習を通じて、各種設計書を読み・書くことができることを目指す。後期のシステム開発演習を見据え、与えられた簡単な要件定義書から画面設計書とデータモデル設計書を作成することができることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					システム設計の工程と成果物について学習し、設計書に記載する内容と意味を説明できる。	
		○				簡単なシステム要件から業務フロー、画面フロー、画面イメージ、データモデルを作成できる。	
		○				システムの要件定義書を読み、画面設計書とデータモデル設計書を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	データモデリング演習1			授業内で終わらなかった演習は次の授業までに終わらせておくこと		
	3-4	データモデリング演習2			授業内で終わらなかった演習は次の授業までに終わらせておくこと		
	5-6	データモデリング演習3			授業内で終わらなかった演習は次の授業までに終わらせておくこと		
	7-8	データモデリング演習4			授業内で終わらなかった演習は次の授業までに終わらせておくこと		
	9-10	データモデリング演習5、6			授業内で終わらなかった演習は次の授業までに終わらせておくこと		
	11-12	設計基礎演習1(画面設計)					
	13-14	設計基礎演習1(概念データモデル作成)					
	15-16	設計基礎演習1(テーブル定義書)			設計基礎演習1の課題を終わらせておくこと		
	17-18	設計基礎演習2(画面一覧)					
	19-20	設計基礎演習2(画面遷移図)					
	21-22	設計基礎演習2(画面設計)					
	23-24	設計基礎演習2(概念データモデル)					
	25-26	設計基礎演習2(テーブル設計)					
	27-28	設計基礎演習2(CRUD図)			設計基礎演習2の課題を終わらせておくこと		
	29-30	詳細設計書とは					
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物課題	○	◎				50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	データベース演習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	柴内加代・高橋政博		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	PostgreSQLの実行環境を使用し、基本的なSQL操作方法を習得する。 講義と演習を交えて学び、知識を演習を通じてデータベースを定義し、登録したデータに対して条件検索・整列・グループ操作・表結合・副問合せなど、目的に応じた操作技術を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					データベースとは何か、どのように使用されているか説明できる	
		○				データベースおよびテーブルの定義、更新、削除方法を習得し、操作できる	
			○			テーブルへのデータ登録、参照方法を習得し、操作できる	
				○		テーブルのデータの更新、削除方法を習得し、操作できる	
テキスト・教材 参考図書	SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第0章 インTRODクシヨン——SQL学習環境を作ろう			PostgreSQLのインストールを完了し、ログインできるようにしておく		
	2-3	第1章 データベースとSQL			章末の練習問題を実施する		
	4-5	第2章 検索の基本			章末の練習問題を実施する		
	6-8	第3章 集約と並べ替え			章末の練習問題を実施する		
	9-11	第4章 データの更新			章末の練習問題を実施する		
	12-	第5章 複雑な問い合わせ			章末の練習問題を実施する		
	17-	第6章 関数、述語、CASE式			章末の練習問題を実施する		
	22-	第7章 集合演算			章末の練習問題を実施する		
	27-	まとめ			期末試験に向け復習する		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(筆記)		◎	◎				50%
確認レポート		◎	◎		○		40%
受講状況					◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること						

科目名	プログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	川野啓祐・手嶋隆之・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Javaプログラミングの基礎文法、オブジェクト指向の基本的概念の再学習。 再学習後にJavaAPI、例外処理、スレッド、メモリ管理、コレクションを中心に実践的なプログラミング開発力を身につける。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、WEBアプリケーション開発に繋げる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				Javaの開発環境を設定できる	
	○	◎				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づく基礎的なJavaプログラムを作成できる	
	○	◎				JavaAPI、例外処理等の実践的な機能を使ったJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	① Java入門編 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社) ② Java実践編 アプリケーション作りの基本(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	Java環境構築、基本構文と制御構文の復習			教材①を使用する。		
	4-6	クラスや継承等の復習					
	7-9	第8章 抽象クラスとインターフェース					
	10-12	教材②第1章 パッケージとJavaAPI			教材②を使用する。		
	13-15	第1章 パッケージとJavaAPI					
	16-18	第1章 パッケージとJavaAPI、章末問題			授業内容に関する課題演習を実施するので復習しておくこと		
	19-21	第2章 例外処理			教材②を使用する。		
	22-24	第2章 例外処理					
	25-27	第2章 例外処理、確認テスト			授業内容に関する課題演習を実施するので復習しておくこと		
	28-30	第3章 スレッド、章末問題			教材②を使用する。		
	31-33	第4章 ガーベジコレクションとメモリ			教材②を使用する。		
	34-36	第4章 ガーベジコレクションとメモリ、章末問題			授業内容に関する課題演習を実施するので復習しておくこと		
	37-39	第5章 コレクション(5-1 ArrayListクラスまで)					
40-42	確認テスト、総合演習			課題演習を実施するので、復習しておくこと			
43-45	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を2回実施する。(2)課題演習を4回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎		○		20%
	課題演習	◎	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること。						

科目名	Webプログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	手嶋隆之・斉藤元		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。教科書のサンプルプログラムを実際に応用し、動作確認しながらPHPの理解を深める。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎				Webアプリケーション開発環境を構築することができる	
	○	◎				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる	
		◎				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	Chapter1-2 インタロダクション、環境構築と動作確認					
	3-4	HTMLの復習 基本構文				環境構築未完了の場合、完了させておくこと	
	5-6	CSSの復習 基本構文					
	7-8	HTMLの復習 各種タグ(Formタグ、Inputタグ)					
	9-10	HTMLの復習 画面遷移					
	11-12	Chapter3 最初のPHPプログラミング(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13-14	Chapter3 最初のPHPプログラミング(2)					
	15-16	Chapter4 制御構造とコントロール(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17-18	Chapter4 制御構造とコントロール(2)					
	19-20	Chapter5 関数を使いこなす(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21-22	Chapter5 関数を使いこなす(2)					
	23-24	Chapter6 データベースの基本と操作(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25-26	Chapter6 データベースの基本と操作(2)					
27-28	総合演習						
29-30	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を1回実施する。(3)各章での演習課題を5回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	確認テスト	○	◎		○		20%
	課題演習	○	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること。						

科目名	Webフロントエンド演習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Web開発で必要となるHTML・CSSの基礎を習得する。基本的なページを作成するためのタグ、Web開発で重要なフォーム系のタグ、マルチデバイスを考慮したレイアウト、ライブラリを使用し効率的なWebページの作成を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			HTMLで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
	○		○			スタイルシートで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
	○		○			基本的なWebページを作成することができる。	
	○		○			ライブラリを利用したWebページを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Bootstrap4 フロントエンド開発の教科書 技術評論社 オリジナル教材、USBメモリ 4G以上						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	HTML・CSSの復習					
	2	JavaScriptの復習			課題を作成しておくこと		
	3	基礎1(Bootstrapとは、コンテナ、色)					
	4	基礎2(アライメント、アイコン、ボタン、ナビゲーション)					
	5	基礎3(プログレスバー、グリッドシステム、マージン・パディング)					
	6	基礎4(画像の表示、ジャンボトロン、フォーム)					
	7	基礎演習			基礎で学習した内容を復習しておくこと		
	8	マテリアルデザイン1(カラーセル、カード、追加色)					
	9	マテリアルデザイン2(ボタングループ、ドロップダウン、フォーム)					
	10	マテリアルデザイン3(モーダル、チャート)					
	11	応用演習1			マテリアルデザインで学習した内容を復習しておくこと		
	12	応用演習2					
	13	応用演習3					
	14	応用演習4					
15	応用演習5			指定された課題を提出すること			
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)出席状況、授業態度を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ITシステム専攻2年、情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンス1年						
授業概要	今後、グループで活動する機会が増えてくる。グループワークを通して学生同間でコミュニケーションを取る演習を行う。 後期の関東の研修旅行を控え、ICT分野を広く知るため、新聞・ネット記事を元にしてICT技術をまとめて発表する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎	○	○		他者とのコミュニケーションが取れる	
		◎		○		新聞・ネット記事から持ってきたICT技術について発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	クラス内オリエンテーション①・・自己紹介、年間ターム確認			スケジュール管理用の手帳を準備させる		
	2	クラス内オリエンテーション②・・グループワーク①			振り返りシートを作成すること		
	3	クラス内オリエンテーション③・・グループワーク②			振り返りシートを作成すること		
	4	クラス内オリエンテーション④・・グループワーク③			振り返りシートを作成すること		
	5	ICT技術調査1					
	6	ICT技術調査2					
	7	ICT技術調査3					
	8	ICT技術調査4			調査資料をまとめておくこと		
	9	調査結果中間報告1			発表練習をしておくこと		
	10	調査結果中間報告2			発表練習をしておくこと		
	11	ICT技術調査5					
	12	ICT技術調査6					
	13	ICT技術調査7			調査資料をまとめておくこと		
	14	調査結果成果発表1			発表練習をしておくこと		
15	調査結果成果発表2			発表練習をしておくこと			
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	成果発表		◎	○	○		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ・逢坂美千代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	ビジネスでは個人で働くことはなく、グループでプロジェクトを遂行していく。したがって企画、営業、設計、製造などの工程や職種、業種に関わらずグループディスカッションでのコミュニケーション力、司会進行や議事録に関するスキルは必須である。本科目ではグループディスカッションで必要となるコミュニケーション力と論理思考力を講義と演習で学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○	○			グループディスカッションの目的と手法を理解し、グループで1つの合意に達することができる。	
	◎		○			グループ内で役割を果たし、議論に貢献することができる。	
	◎		○			論理的に考え、議論の結論と根拠を導き出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グループディスカッション(以下GD)とは					
	2	GDの進め方 GD演習(1)					
	3	GD演習(2)			GDの進め方について復習しておくこと		
	4	対人能力 GD演習(3)					
	5	GD演習(4)			対人能力について復習しておくこと		
	6	GD演習(5)					
	7	論理思考能力 GD演習(6)					
	8	論理思考能力 MECEの説明					
	9	GD演習(7)			論理的思考能力について復習しておくこと		
	10	チームマネジメント能力					
	11	GD演習(8)			チームマネジメント能力について復習しておくこと		
	12	立ち回り					
	13	GD演習(9)			立ち回りについて復習しておくこと		
	14	GD演習(10)					
15	GD演習(11)						
評価方法	(1)演習ごとにレポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワークⅡA(CompTIA Network+)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻・情報工学科 高度ネットワーク・セキュリティ専攻 2年 情報システム科ネットワーク専攻 アドバンス・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 アドバンス 1年						
授業概要	OSI参照モデルやスイッチング、ルーティングなどネットワーク通信の仕組み、また無線、有線のネットワークを構築する機器の特徴を学習する。またネットワーク管理に必要な知識、トラブルシュート、セキュリティ対策についても学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				OSI参照モデルのレイヤ毎の特徴や概念、付随するプロトコルの特徴を説明できる	
	○	○				ネットワークを構成する機器の特徴や利用目的を説明できる	
	○	○				ネットワーク管理に必要な知識、技術、またトラブルシュートの手法やツールの説明ができる	
	○	○				ネットワークセキュリティに関する攻撃手法や対応方法について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	Get! CompTIA Network+ (翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	・OSI参照モデル、ルーティング・スイッチング(1)					
	4-6	・ルーティング・スイッチング(2)					
	7-9	・ルーティング・スイッチング(3)、ネットワークポロジ					
	10-12	・クラウドの概念、第1章確認テスト			確認テストに向けた準備をさせる		
	13-15	・適切な配線ソリューション					
	16-18	・ネットワーク機器の配置、仮想化					
	19-21	・WAN、第2章確認テスト、これまでの復習			確認テストに向けた準備をさせる		
	22-24	・ネットワークのオペレーション					
	25-27	・第3章確認テスト、ネットワークのセキュリティ			確認テストに向けた準備をさせる		
	28-30	・一般的なネットワーク攻撃、被害の緩和方法(1)					
	31-33	・第4章確認テスト、これまでの復習			確認テストに向けた準備をさせる		
	34-36	・ネットワークのトラブルシューティング手法、ソフトウェアツール					
	37-39	・ネットワークの接続とパフォーマンス					
	40-42	・ネットワークサービスの一般的問題、第5章確認テスト			確認テストに向けた準備をさせる		
43-45	・Network+ 対策						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	ネットワークⅡA(CCNA)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	IOSの基本操作、Catalystスイッチの基本操作、インターフェース設定、管理アクセスに対するセキュリティ設定、VLAN設定、各設定の確認方法、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Catalystスイッチの管理アクセス、セキュリティ、VLANに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				Catalystスイッチの管理アクセス、セキュリティ、VLANに関する基本設定、動作確認ができる。	
	○	○				Catalystスイッチの管理アクセス、セキュリティ、VLANに関するトラブルシューティングができる。	
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 Cisco CCNA Routing & Switching ICND1編 教科書(インプレスジャパン)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	5-1 Ciscoデバイスへの接続					
		5-2 Cisco IOSのモード					
	3,4	5-3 IOS操作とヘルプ機能					
		5-4 コンフィグレーションの保存					
	5,6	5-5 Cisco IOSの接続診断ツール				演習課題のエビデンスを提出すること。	
		6-1 Catalystスイッチの初期起動					
	7,8	6-2 スイッチの基本設定					
		6-3 スイッチの基本設定の確認					
	9,10	6-4 MACアドレステーブル				演習課題のエビデンスを提出すること。	
		6-5 二重モードと速度の設定					
	11,12	13-1 パスワードによる管理アクセスの保護					
	13,14	13-2 管理アクセスに対するセキュリティの強化					
	15,16	13-3 スイッチのセキュリティ機能				演習課題のエビデンスを提出すること。	
17,18	9-1 キャンパスネットワークの設計						
19,20	9-2 VLANの概要						
21,22	9-3 VLANの動作						
23,24	9-4 スタティックVLANの設定と検証				演習課題のエビデンスを提出すること。		
25,26	9-5 トランクポートの設定と検証						
27,28	9-6 音声VLAN				演習課題のエビデンスを提出すること。		
29,30	総合演習				演習課題のエビデンスを提出すること。		
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	データベース演習							
科目名(英)								
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	打越直美			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	Postgresqlを使用したデータベースシステムのインストール、チューニング、運用管理に必要な技術を学習し、データベース言語SQLの基本を理解する。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					データベースに必要な基本用語、仕組みの説明ができる		
		○				データベースの環境構築、操作環境の構築ができる		
	○	○				SQL言語を使用し、データベースの操作ができる		
	○	○				SQL言語を使用し、データベースの運用管理ができる		
テキスト・教材 参考図書	SQL ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	実習環境構築(接続設定、SQLの基本)			データベースの仕組みや目的について調べる			
	2	データベースとSQL(データベースの構成、SQLの概要)			プログラムをダウンロードし、環境構築に必要なツールを準備する			
	3	データベースとSQL(テーブルの作成、削除と変更)			環境構築手順をレポートにまとめる			
	4-5	検索の基本(SELECT文の基本、算術演算子)			SQLの基本コマンドを調べておく			
	6-7	検索の基本(比較演算子、論理演算子)						
	8	復習(確認テスト)						
	9	集約と並べ替え(集約検索、テーブルのグループ)			集約コマンドを調べておく			
	10-11	集約と並べ替え(集約結果の条件指定)			検索用テーブルデータを準備する			
	12	集約と並べ替え(検索結果の並び替え)						
	13-14	データの操作(データの登録、削除)						
	15	データの操作(データの更新、トランザクション)						
	16	復習(確認テスト)						
	17-18	複雑な問い合わせ(ビュー)			ビュー関連コマンドを調べておく			
	19-21	複雑な問い合わせ(サブクエリ)			ビュー用テーブルデータを準備する			
	22	複雑な問い合わせ(相関サブクエリ)						
	23	関数、述語、CASE式(いろいろな関数、述語)						
	24	関数、述語、CASE式(CASE式)						
	25	復習(確認テスト)						
	26	集合演算(テーブルの足し算と引き算)			集合演算関連コマンドを調べておく			
	27-28	集合演算(結合)			集合演算用テーブルデータを準備する			
	29	高度な処理(GROUPING演算子)						
	30	総演習(確認テスト)						
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習課題のレポートを提出する。(3)確認テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験(筆記)	○					40%
		演習課題(レポート)	○	◎		○		30%
	確認テスト	○					30%	
	履修上の注意							

科目名	サーバー構築・運用演習 I A						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	サーバー構築・運用に必要なコマンド、ファイル、仕組み、設定方法を講義と演習を通して学習する。インターネットサーバーの基本となるDNSとWebの仕組みを理解し、BIND、Apache、Nginxの設定方法を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				サーバー構築・運用に必要な基本設定および基本コマンドを使用できる。	
	○	○				DNSの仕組みを理解し、BINDの基本設定ができる。	
	○	○				Webの仕組みを理解し、ApacheおよびNginxの基本設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	CentOS徹底入門 第4版(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	CentOSとは:概要、移行のポイント CentOSのインストール:OS入手、インストール要件、インストール方法 基本操作:基本コマンド復習			1年次のLinuxコマンドを復習すること。		
	4-6	ファイル管理:パーミッション、ファイル管理方法、検索 ファイルシステムの管理:パーティション作成、ファイルシステム作成			テキストChapter6まで復習すること。		
	7-9	ネットワークの設定:VirtualBoxのアダプター種類、ネットワーク設定方 パッケージの管理とアップデート:DNF、リポジトリ、rpmコマンド、ソース					
	10-12	システムの起動とサービス管理:システム起動プロセス、systemd、 ストレージ管理:LVM、RAID、iSCSI					
	13-15	システム管理:ユーザー、グループ、プロセス、ジョブスケジューリング システムリソースの監視:HW情報確認、リソース確認、ログ確認			テキストChapter11まで復習すること。		
	16-18	DNSサーバー:DNSの仕組み、BINDインストール、BIND基本設定					
	19-21	DNSサーバー:ゾーンファイル設定、マスター・スレーブ					
	22-24	DNSサーバー:委任			DNSサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	25-27	Webサーバー:Webの仕組み、Apacheインストール、Apache基本設定					
	28-30	Webサーバー:モジュール、ユーザー認証					
	31-33	Webサーバー:ユーザーディレクトリ公開、バーチャルホスト			Webサーバー(Apache)演習のエビデンスを提出すること。		
	34-36	Webサーバー:Nginxインストール、Nginx基本設定					
	37-39	Webサーバー:ユーザー認証、ユーザーディレクトリ公開					
40-42	Webサーバー:バーチャルホスト						
43-45	Webサーバー:リバースプロキシ			Webサーバー(Nginx)演習のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	今後、グループで活動する機会が増えてくる。グループワークを通して学生同士でコミュニケーションを取る演習を行う。 後期の関東の研修旅行を控え、ICT分野を広く知るため、新聞・ネット記事を元にしてICT技術をまとめて発表する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎	○	○		他者とのコミュニケーションが取れる	
		◎		○		新聞・ネット記事から持ってきたICT技術について発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	クラス内オリエンテーション①・・自己紹介、年間ターム確認			スケジュール管理用の手帳を準備させる		
	2	クラス内オリエンテーション②・・グループワーク①			振り返りシートを作成すること		
	3	クラス内オリエンテーション③・・グループワーク②			振り返りシートを作成すること		
	4	クラス内オリエンテーション④・・グループワーク③			振り返りシートを作成すること		
	5	ICT技術調査1					
	6	ICT技術調査2					
	7	ICT技術調査3					
	8	ICT技術調査4			調査資料をまとめておくこと		
	9	調査結果中間報告1			発表練習をしておくこと		
	10	調査結果中間報告2			発表練習をしておくこと		
	11	ICT技術調査5					
	12	ICT技術調査6					
	13	ICT技術調査7			調査資料をまとめておくこと		
	14	調査結果成果発表1			発表練習をしておくこと		
15	調査結果成果発表2			発表練習をしておくこと			
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	成果発表		◎	○	○		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ・逢坂美千代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	ビジネスでは個人で働くことはなく、グループでプロジェクトを遂行していく。したがって企画、営業、設計、製造などの工程や職種、業種に関わらずグループディスカッションでのコミュニケーション力、司会進行や議事録に関するスキルは必須である。本科目ではグループディスカッションで必要となるコミュニケーション力と論理思考力を講義と演習で学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					グループディスカッションの目的と手法を理解し、グループで1つの合意に達することができる。	
	○		○			グループ内で役割を果たし、議論に貢献することができる。	
	○					論理的に考え、議論の結論と根拠を導き出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グループディスカッション(以下GD)とは					
	2	GDの進め方 GD演習(1)					
	3	GD演習(2)			GDの進め方について復習しておくこと		
	4	対人能力 GD演習(3)					
	5	GD演習(4)			対人能力について復習しておくこと		
	6	GD演習(5)					
	7	論理思考能力 GD演習(6)					
	8	論理思考能力 MECEの説明					
	9	GD演習(7)			論理的思考能力について復習しておくこと		
	10	チームマネジメント能力					
	11	GD演習(8)			チームマネジメント能力について復習しておくこと		
	12	立ち回り					
	13	GD演習(9)			立ち回りについて復習しておくこと		
	14	GD演習(10)					
15	GD演習(11)						
評価方法	(1)演習ごとにレポートを実施する。(2)出席状況、授業態度を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎		○		50%
	出席状況・授業態度				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	分析・設計モデリング						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	組込みシステム開発の設計段階における設計手法を学ぶ。対象製品をハード/ソフトの構造物として捉えて分析しUMLを使って図として表現する。組込み業界向けのコンテストである「ETロボコン」のモデル提出を前提として実施する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					どのようなときにモデリングが必要なのかを説明できる	
	○					要件仕様の実現にあたり、モデリングを行い、UMLを使って表現ができる	
	○					ETロボコンの走行ロボットについてのモデリングができる	
テキスト・教材 参考図書	かんたん UML入門[改訂2版](技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、モデリングとは何か					
	2	UML基礎(ユースケース図)					
	3	UML基礎(オブジェクト図、クラス図)					
	4	UML基礎(シーケンス図、コミュニケーション図)					
	5	UML基礎(ステートマシン図)					
	6	演習1ビデオカメラ(仕様理解、ユースケース図)					
	7	演習1ビデオカメラ(ユースケースの実現方法とオブジェクト図)					
	8	演習1ビデオカメラ(コミュニケーション図、クラス図)					
	9	演習1ビデオカメラ(シーケンス図)					
	10	演習2ETロボコン(モデル作成演習:ユースケース図、オブジェクト図)					
	11	演習2ETロボコン(モデル作成演習:コミュニケーション図、クラス図)					
	12	演習2ETロボコン(モデル作成演習:シーケンス図、ステートマシン図)				モデル図を作成する	
	13	演習2ETロボコン(モデル作成演習:製作物レビュー)					
	14	演習2ETロボコン(モデル作成演習:製作物レビュー修正)					
15	演習2ETロボコン(モデル作成演習:製作物レビュー修正)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)成果物としてモデル図を提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	成果物		◎				50%
履修上の注意							

科目名	組込みプログラミング演習 I						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	高橋政博		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	組込みシステムの構築において必須となるC言語。まずは文法の理解と主な関数の使用方法を学習する。また、C言語プログラミング能力認定試験3級の問題解答やプログラミング作成演習を通して、C言語の基礎知識の定着を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				変数宣言、条件分岐、繰り返しを使ったプログラムを作成できる	
	○					C言語のデータ型と演算子の種類を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	新・明解C言語 入門編(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	概要。簡単なC言語プログラムの作成。					
	6-10	演算と型。演算子の種類。データ型の種類。					
	11-15	分岐。if文、switch文を使用した処理の分岐。					
	16-20	繰り返し。do~while文、while文、for文を使用した単一・多重の繰り返し。					
	21-25	配列。多次元配列。配列とメモリの関係。					
	26-30	関数(1)。関数の定義と使用方法。ヘッダとインクルード。					
	31-35	関数(2)。配列の受け渡し。有効範囲と記憶域期間。					
	36-40	データ型(1)。整数型、文字型、オーバーフローと例外。					
	41-45	データ型(2)。浮動小数点型、演算と演算子。					
	46-50	関数形式マクロ、列挙、再帰、入出力。					
	51-55	文字列。文字列の仕組みと操作方法。					
	56-60	演習課題(1)／プログラミング課題に沿ったプログラム作成					
	61-65	演習課題(2)／プログラミング課題に沿ったプログラム作成					
66-70	C言語プログラミング検定3級問題(1)						
70-75	C言語プログラミング検定3級問題(2)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を実施する。(3)課題演習を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎		○		20%
	課題演習	◎	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを準備すること。 50コマ(75コマ中)以上の出席が無い場合は、定期試験の受験資格は与えられない。						

科目名	ロボット制御演習 I						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	山下文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	ロボットを制御するソフトウェアの開発をチームで行う。授業後は組込み業界でメジャーなコンテストであるETロボコン大会に出場する。チーム開発による集団でのシステム構築を通して、コミュニケーション技術と責任感を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				要件定義、分析、設計、実装、テストの各工程で行う作業を説明できる	
		○				チームで行う開発作業の長所、短所を説明できる	
		○				ETロボコンに出場できるソフトウェアの開発を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	ロボットと情報技術 実習-教育版EV3・C言語 生徒用授業ガイド(アフレル)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	EV3・C言語開発環境構築					
	5-8	EV3・C言語モーター制御					
	9-12	EV3・C言語センサー制御					
	13-16	ライントレースプログラムの作成					
	17-20	ETロボコン概要				過去のETロボコンの動画を見て、コース攻略のイメージを準備すること。	
	21-24	ルール確認				WBS作成技法について調べること。	
	25-28	WBS作成・役割分担、スケジュール作成					
	29-32	走行体組み立て					
	33-36	要件定義／コース理解、戦略方針					
	37-40	分析／通常走行モード開発、リカバリ走行モード開発					
	41-44	設計／タスク設計、入出力設計					
	45-48	実装／基本走行部分					
	49-52	実装／難所攻略部分					
	53-56	テスト／走行試験				走行試験の結果を元にプログラムを調整すること。	
57-60	学内競技会／成果発表会						
評価方法	(1)開発したプログラムを評価する。(2)学内競技会を実施して走行完成度を評価する。(3)受講状況を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プログラム成果物		○				40%
	学内競技会		○				40%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	学校活を送る上での基盤となる力や社会で働く力を育む。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		人間関係を自主的、実践的により良いものへと形成できる	
	○			○		社会的・職業的自立の意義を理解し説明できる	
	○			○		社会生活を営む上で必要なマナーやルールを理解し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス内オリエンテーション① …年間ターム確認					
	2	クラス内オリエンテーション② …年間目標作成					
	3	クラス内勉強会① …最初の躓きを無くそう					
	4	就職に向けて① …過去の自分を振り返ろう					
	5	就職に向けて② …未来の自分を想像しよう					
	6	クラス内勉強会② …自分の理解度を確認しよう					
	7	就職に向けて③ …自己PRを考えよう					
	8	就職に向けて④ …IT業界について調べよう					
	9	クラス内勉強会③ …分からない所はとことん調べよう					
	10	就職に向けて⑤ …職種について調べよう					
	11	就職に向けて⑥ …先輩が就職した企業を調べよう					
	12	クラス内勉強会③ …期末試験に向けて準備を整えよう					
	13	就職に向けて⑦ …業界の動きを調べよう					
	14	就職に向けて⑧ …新しい技術を調べよう					
15	クラス内オリエンテーション③ …年間目標に向けての中間報告						
評価方法	(1)レポート課題提出 (2)授業の受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	出席が10回(全15回中)に満たない場合、または、レポートがすべて提出されていない場合は単位認定できない。 再試験は実施しない。						

科目名	セキュリティ基礎						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	木村 浩昌、高倉 美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年、1年アドバンス・情報システム専攻科 2年、1年アドバンス・情報システム科 2年、1年アドバンス						
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができ、ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。また、SEA/J主催 CSBM試験の合格を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。	
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。	
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	情報セキュリティ技術認定 基礎コース(SEA/J)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	第1章 情報セキュリティマネジメント					
	3-4	第2章 セキュリティ運用					
	5-6	第3章 インフラセキュリティ			1から3章までの用語の意味を確認しておく		
	7-8	第4章 不正アクセス					
	9-10	第5章 ファイアウォール					
	11-12	第6章 侵入検知			4から6章までの用語の意味を確認しておく		
	13-14	第7章 アプリケーションセキュリティ					
	15-16	第8章 OSセキュリティ					
	17-18	第9章 認証					
	19-20	第10章 プログラミング			7から10章までの用語の意味を確認しておく		
	21-22	第11章 不正プログラム					
	23-24	第12章 暗号					
	25-26	第13章 電子署名					
	27-28	第14章 PKI					
29-30	第15章セキュリティプロトコル / 第16章 法令・規格						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	課題・レポート	○	◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳・高倉美哉・山下		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	<p>「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力 						
授業形式	講義： <input type="radio"/>	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法： <input type="radio"/> その他： <input type="checkbox"/>		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					考えることの大切さを理解することができる。	
	<input type="radio"/>					自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
	<input type="radio"/>					目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
	<input type="radio"/>					行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志			振り返りレポート		
	2	なぜ志を立てることが大切なのか			振り返りレポート		
	3	自己を知る			振り返りレポート		
	4	伝える力を学ぶ(1)			振り返りレポート		
	5	伝える力を学ぶ(2)			振り返りレポート		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる			振り返りレポート		
	7	自己の大切さと責任を自覚する			振り返りレポート		
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと			振り返りレポート		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		50%
	受講状況				<input checked="" type="radio"/>		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験春対策A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科1年アドバンスコース						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)					
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習					
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)					
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)					
	5	国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)					
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)				小テストの範囲を復習しておくこと	
	7	小テスト 国語分野1~5、数学分野(1~6)					
	8	小テスト 返却&解説&見直し				小テストの不正解の問題を見直すこと	
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)					
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)					
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)					
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)					
	13	数学分野(13:集合)					
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)					
15	期末試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							